

営農技術情報

—畑作(秋まき小麦) 7月号—

平成30年 7月 19日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～収穫に向けて確実に「仕上げ」を行ないましょう～

(1) 生育経過について

本年は、6月中旬～7月上旬にかけて低温で推移したため、登熟は緩慢に進み、現時点で平年に比べて2日程度遅れている状況です。今後の気温によって成熟期(穂水分40%)は前後しますが、平年並みで推移した場合、7月22日頃と見込まれます。

	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂期	乳熟期	成熟期
本年	4/18	5/12	6/2	6/8	7/2	(7/22)
平年	4/20	5/13	6/3	6/11	7/2	7/20
遅速	早2日	早1日	早1日	早3日	±0日	遅2日

(2) 汚粒の防止

雑草が多いほ場では、収穫時の雑草種子や茎葉の混入により、小麦の子実が汚粒となるおそれがあります。収穫前までに抜き取りを行うようにしましょう。

(3) 穂および茎葉の汚れが気になる場合

登熟が進むにつれ、穂や茎葉に雑菌(黒カビ)が付着しやすくなります。汚れを軽減したい場合は、「チルト乳剤25」(収穫3日前まで)の散布が有効です。

なお、赤かび病については防除適期を過ぎているため、効果は期待できません。

(4) 適期収穫について

収穫作業に向けて

- 登熟が不揃いの場合は、登熟の進んだ部分から収穫するようにしましょう。
- 子実水分の確認を行い、適期収穫に努めましょう。
- コンバインでの収穫は子実水分30%未満を目安に開始して下さい。
- 倒伏している場合や、穂発芽・赤かび病などの異常麦は別刈りとし、正常な小麦に混入しないようにしましょう。
- 高水分で収穫した小麦は、異臭麦発生の原因となるので3時間以上放置(長期堆積)しないようにしましょう。
- ほ場内にレキや防除目安のポールなど収穫作業に障害となるものがないか、収穫前に予め確認しましょう。
- **万が一、「なまぐさ黒穂病」が疑われる症状が見られた場合は、収穫作業を中止し、JAもしくは普及センターまでご連絡下さい。**

コンバイン作業時には、周囲の安全を確認するとともに、点検時は必ずエンジンを切ってから作業を行いましょう。